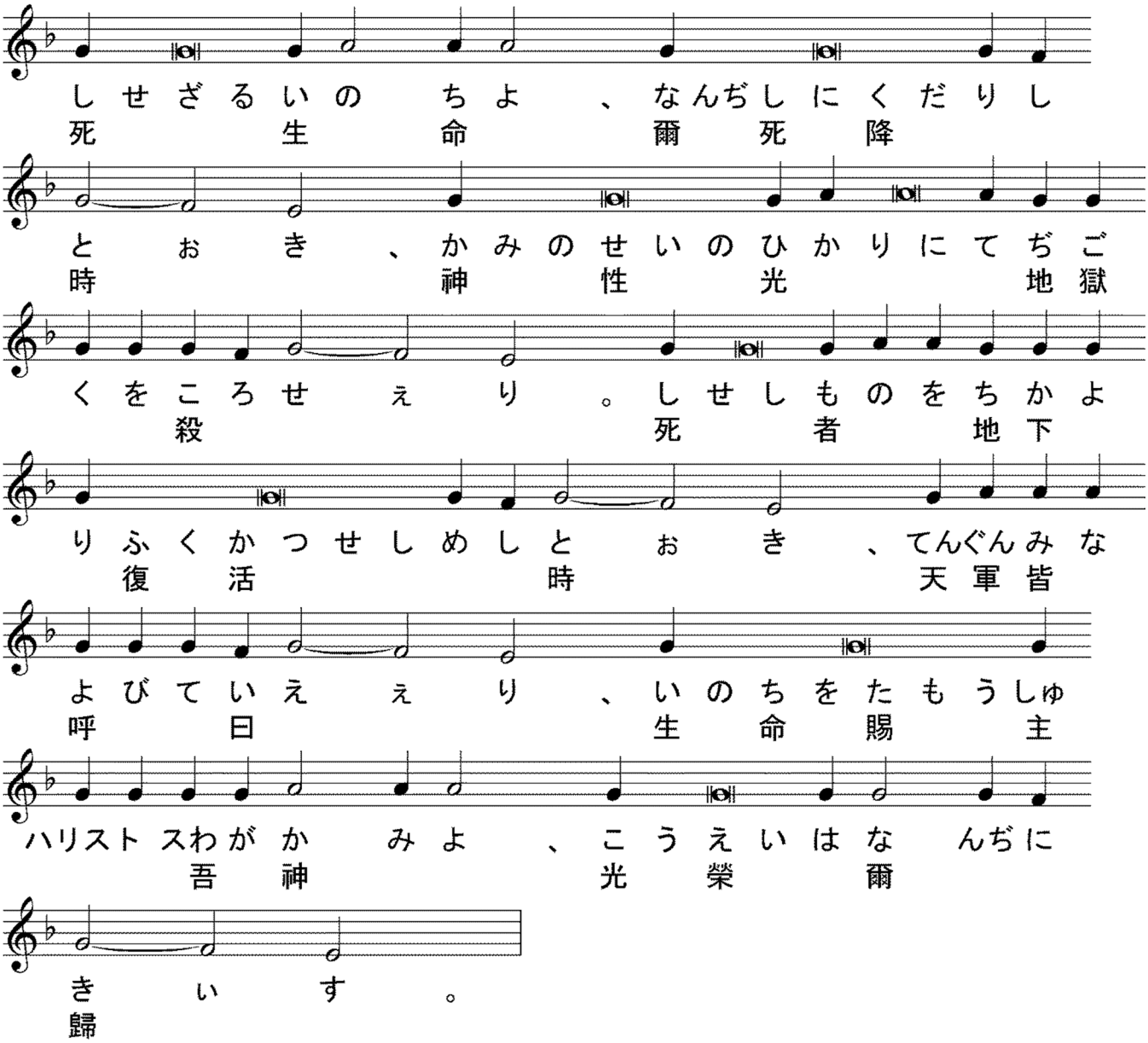
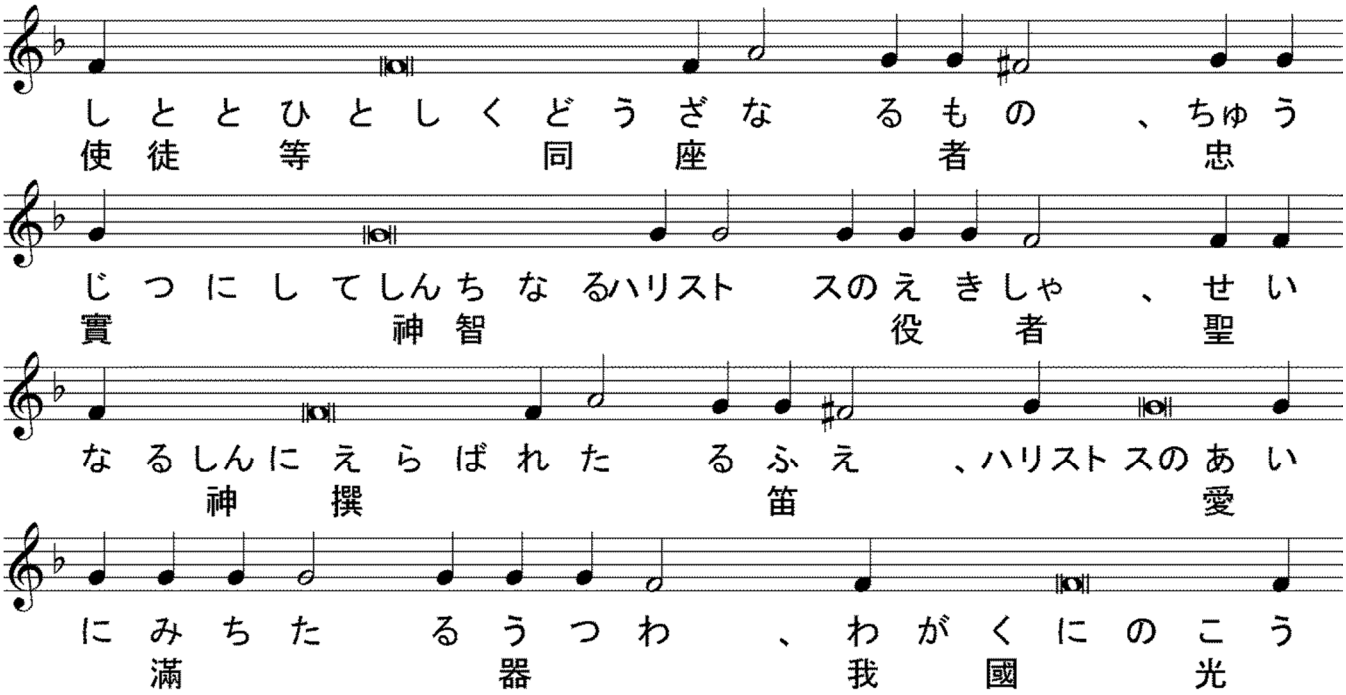
【　復活のトロパリ　第２調　】



【　日本の亜使徒ニコライのトロパリ　第４調　】



しょ　お　しゃ　、あしとしゅきょうせいニコラ　イ
照　　者　　亜使徒主教　聖

よ　、なんぢのぼくぐんのた　ぁ　め　、および
爾　　羊　群　爲　　及

ぜんせかいのた　めに　、いのちをたもうせい
全世界　爲　　生　命　賜　聖

さんしゃにいのりたま　え　。
三者　祈　　給

【　日本の亜使徒ニコライのコンダク　第４調　】

こうえいはちちとこ　ぉ　と　せいしんにき
光　榮　父　子　　聖　神　歸

す　、

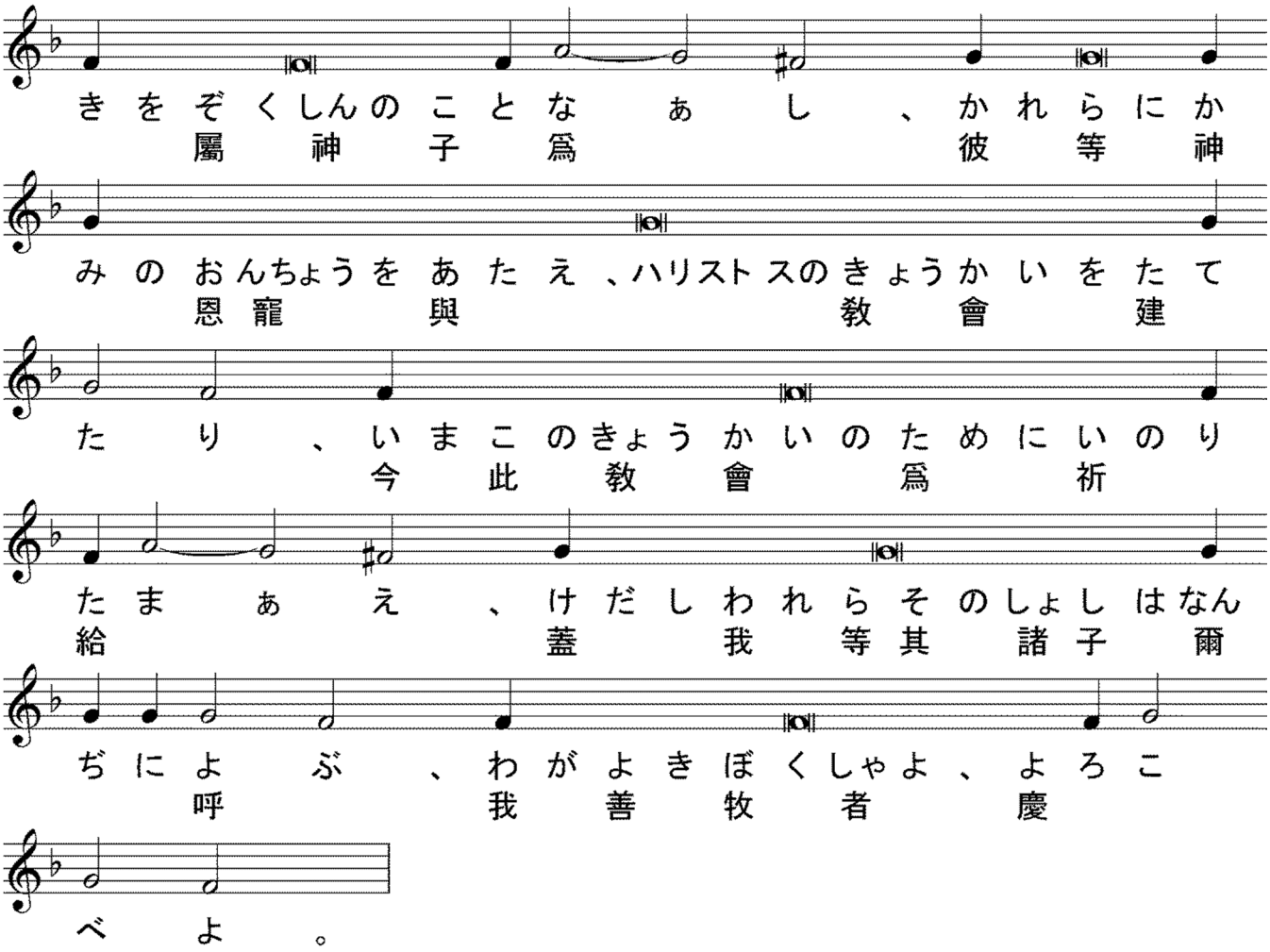
せいせいしゃあしとせいニコラ　イよ　、わが
成　聖　者亞使徒聖　　我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
國　爾　旅　人　及　異邦　人　受

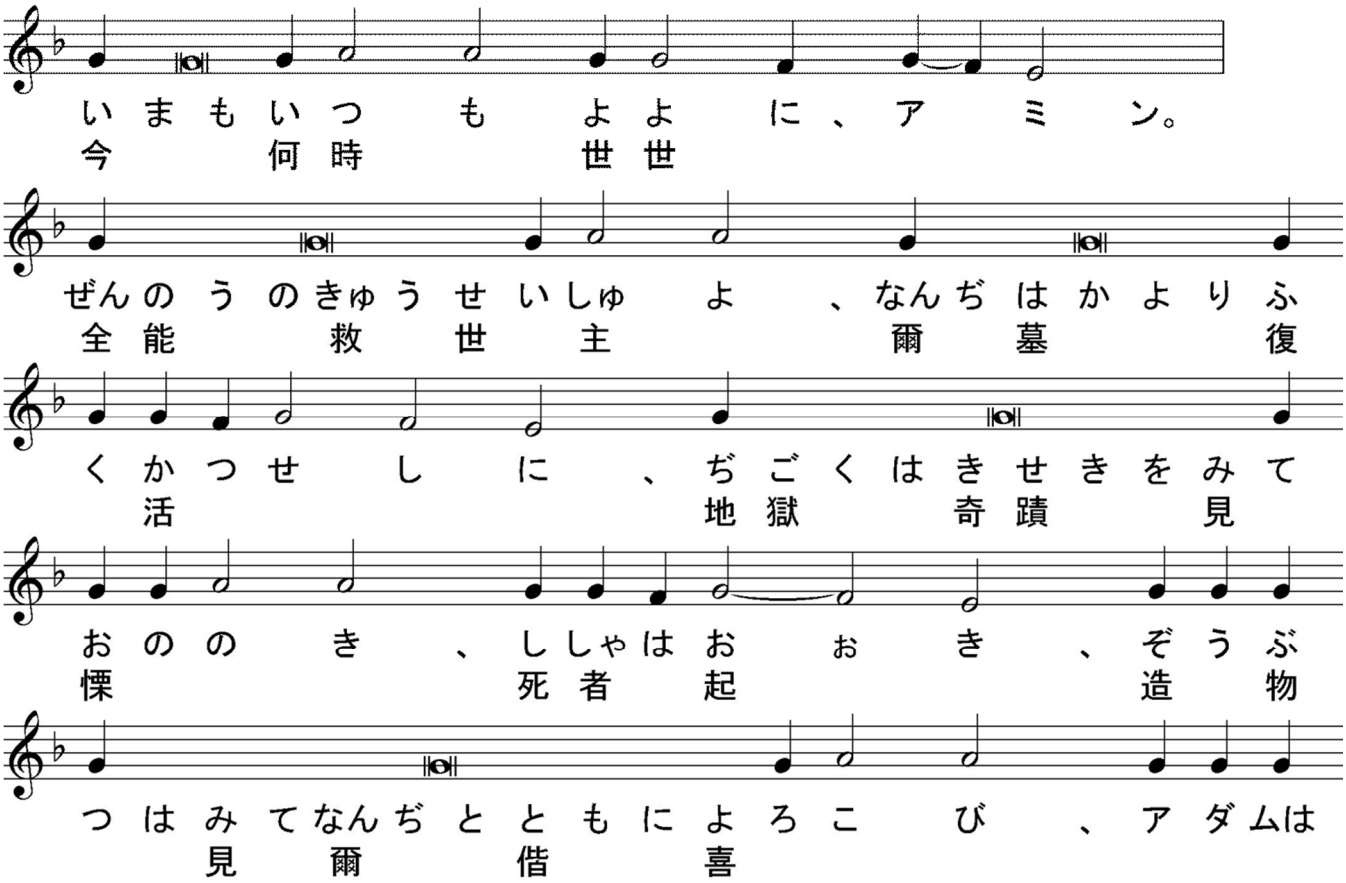
しに　、なんぢははじめわがくにおいておの
爾　初　我　國　於　己

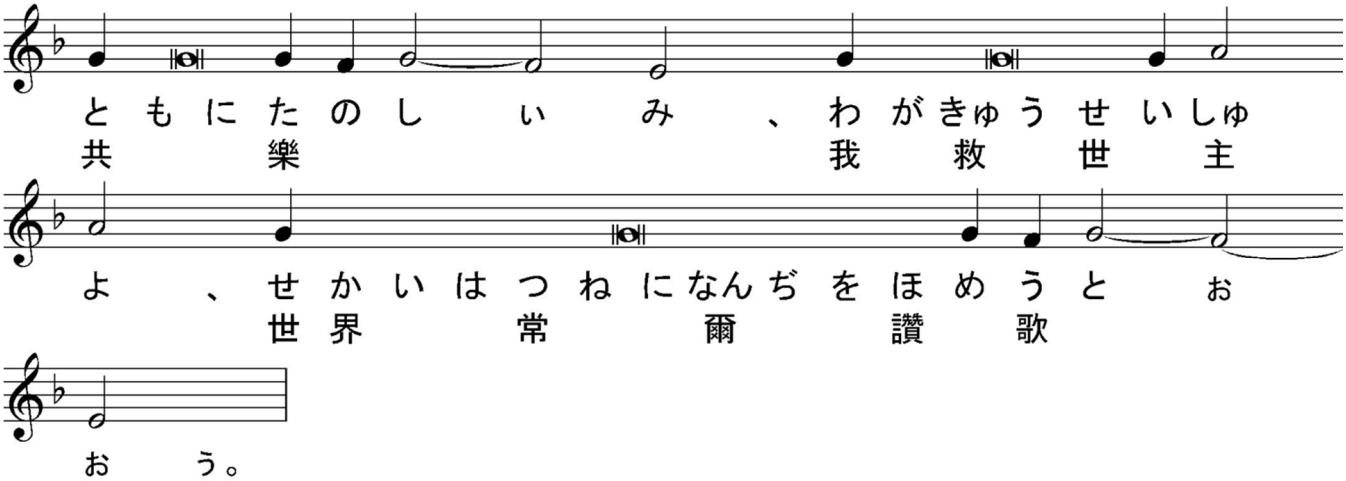
れをがいらいしゃとしりた　れども　、ハリストスの
外　來　者　知

ひかりとあたたかきをなが　し　、なんぢのて
光　暖　流　爾　敵


きをぞくしんのことなぁし、かれらにか
屬神子爲彼等神
みのおんちょうをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
恩寵與教會建
たり、いまこのきょうかいのためにいのり
今此教會爲祈
たまぁえ、けだしわれらそのしょしはなん
給蓋我等其諸子爾
ぢによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
呼我善牧者慶
べよ。

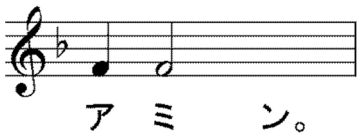
【　復活のコンダク　第２調　】


いまもいつもよよに、アミン。
今何時世世
ぜんのうのきゅうせいしゅよ、なんぢはかよりふ
全能救世主爾墓復
くかつせしに、ぢごくはきせきをみて
活地獄奇蹟見
おのの き、ししゃはおぉき、ぞうぶ
慄死者起造物
つはみてなんぢとともによろこび、アダムは
見爾偕喜

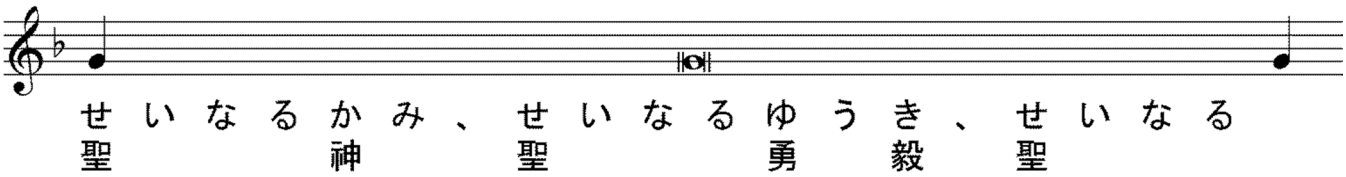


司祭）（ 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、ヘルヴィムより讃榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行う者を棄てずして、其救の爲に痛悔を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖なる祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讃榮を奉るに堪うる者となしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體とを聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 ）

司祭） **蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、**



【 聖三祝文 】



じょうせいのものよ、われらをあわれめ
常生者我等憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい
聖神聖勇毅聖

なるじょうせいのものよ、われらをあわれ
常生者我等憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、
聖神聖勇毅

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖常生者我等憐

れめよ。こうえいはちちとことせいしん
光榮父子聖神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。
歸今何時世世

せいなるじょうせいのものよ、われらをあわ
聖常生者我等憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう
聖神聖勇

き、せいなるじょうせいのものよ、われらを
毅聖常生者我等

あわれめよ。
憐

司祭)（ 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に、　）

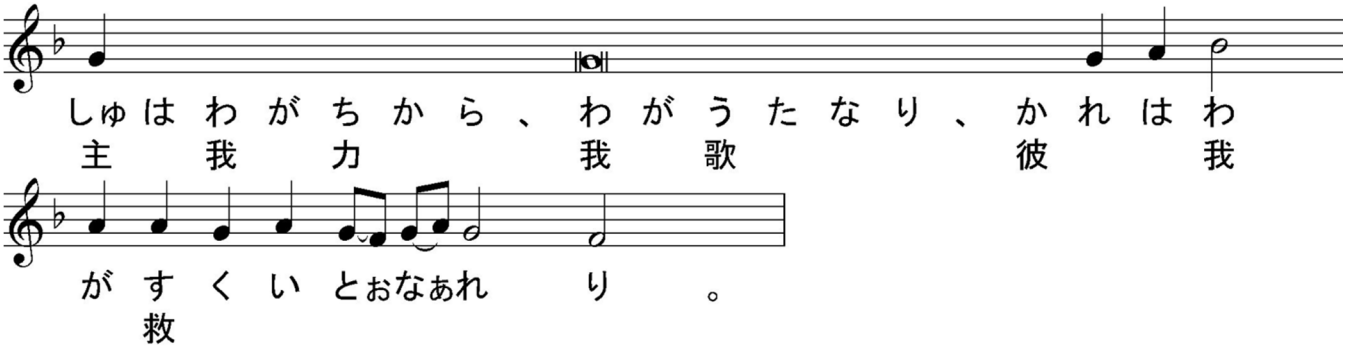
【　提綱（プロキメン）　主日第２調　】

司祭）　慎みて聽くべし、衆人に平安、

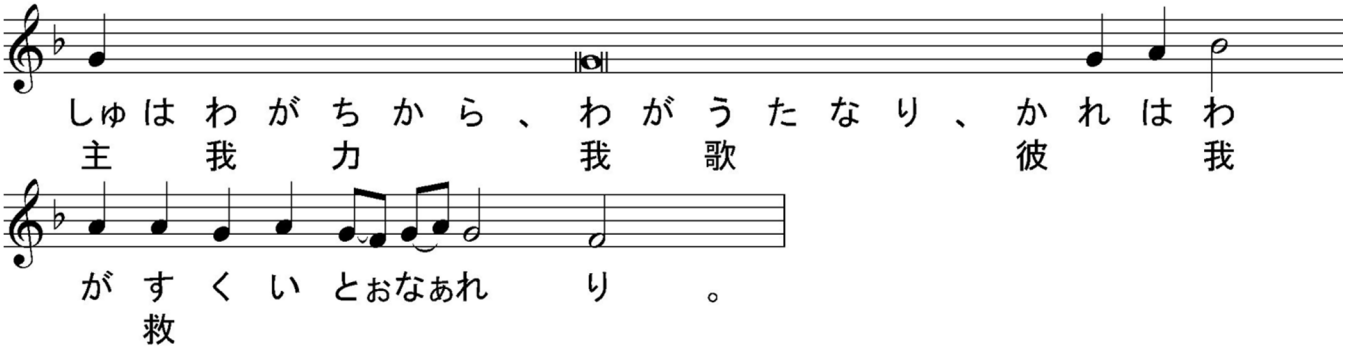
誦經）　爾の神にも、

司祭）　睿智、

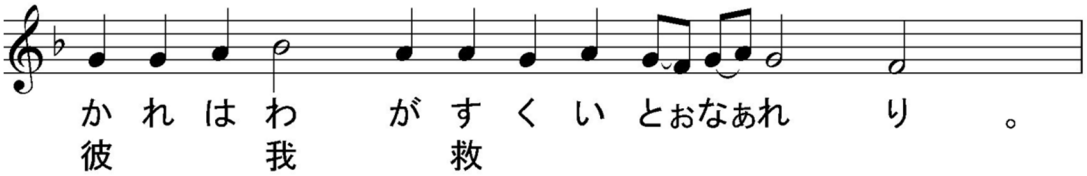
誦經）　プロキメン、主は、我が力、我が歌なり、彼は我が救となれり、



誦經）　主は嚴しく我を罰したれども、我を死に付さざりき、



誦經）　主は、我が力、我が歌なり、



【　使徒經（アポストロス）　233端　エフェス書６章10節～17節　】

司祭）　睿智、

誦經）　聖使徒パヴェルがエフェス人に達する書の讀、

司祭）　謹みて聽くべし、

誦經）　兄弟よ、主及び其權の力に頼りて堅固になれ。神の全備の武具を衣よ、爾等が惡

魔の奸計を禦ぐを得ん爲なり、蓋我等の戰は血肉に於てするに非ず、乃首領に於てし、權柄に於てし、此の世の暗昧の世君に於てし、天空に在る凶惡の諸神に於てするなり。此に因りて神の全備の武具を取れ、惡しき日に於て禦を爲し、凡の事を成就して、立つを得ん爲なり。故に立ちて、眞實を爾等の腰に束ね、義の甲を衣、和平を福音する預備を以て足に履はき、更に信の盾を執れ、之を以て惡敵の悉くの火箭を滅すを得ん、又救の冑、及び神の劍、即神の言を取れ。

＊＊＊

（比較用　口語訳）兄弟たちよ、主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当を胸につけ、平和の福音の備えを足にはき、その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。

＊＊＊

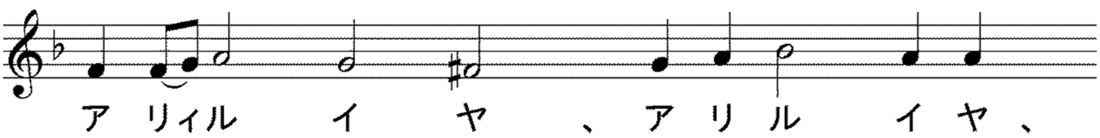
【　アリルイヤ　主日第２調　】

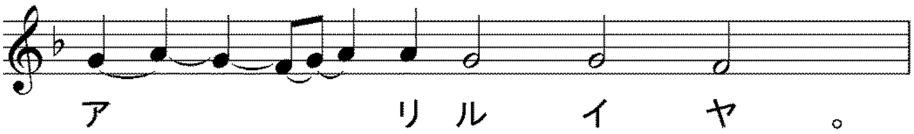
司祭）爾に平安、

誦經）爾の神にも、

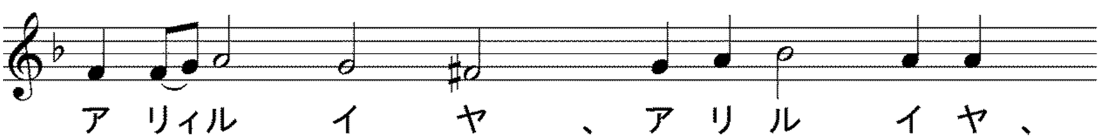
司祭）睿智、

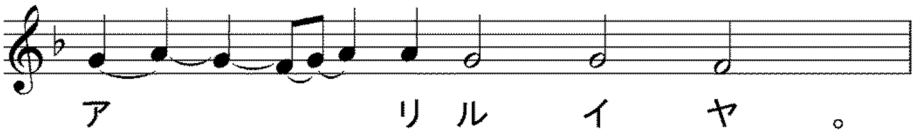
誦經）アリルイヤ、



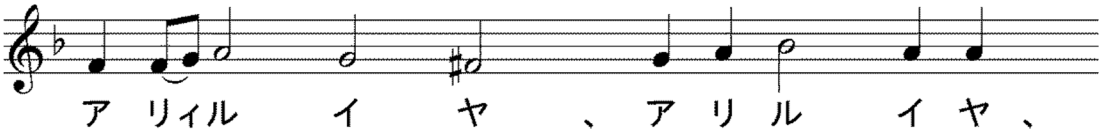


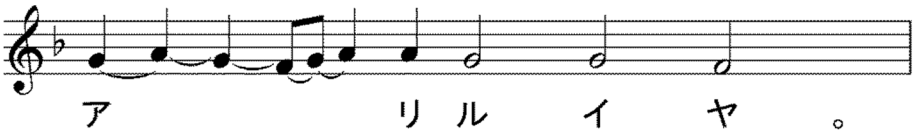
誦經）願わくは主は憂の日に於て爾に聽き、イァコフの神の名は爾を扞ぎ衛らん、





誦經) 主よ、王を救え、又我等が爾に呼ばん時、我等に聽き給え、

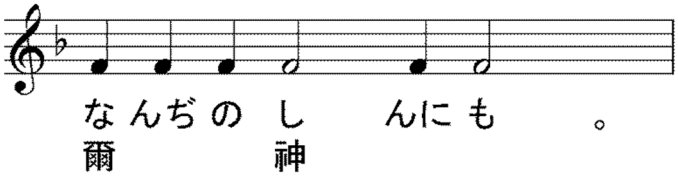




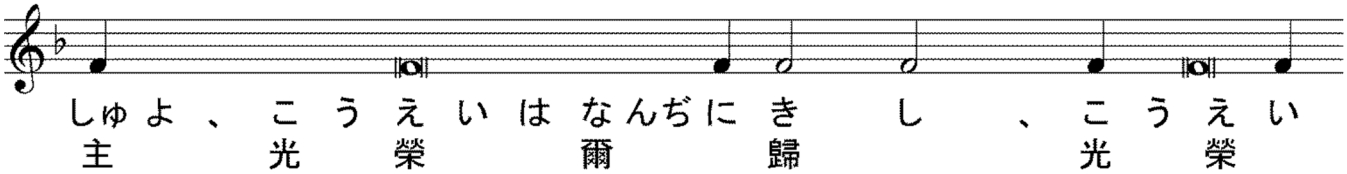
司祭) (黙誦: 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誡を畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。)

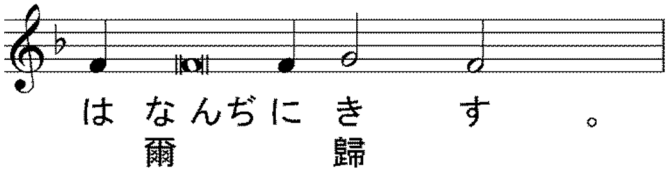
【 福音經 ルカ福音書 71 端 13 章 10～17 節 】

司祭) 睿智、肅みて立て聖福音經を聽くべし、衆人に平安、



司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、





司祭) 謹みて聽くべし、彼の時安息日にイイスス一の會堂に在りて教を宣べたり。爰に十

八年病の鬼を患うる婦あり、傴みて、少しも伸ぶ能わざりき。イイススこれを見て、呼び

て之に謂えり、婦よ、爾は其病より釋かれたり。乃手を彼に按せたれば、彼直に

伸びて、神を讃榮せり。會堂の宰、イイススが安息日に醫を施ししを熅りて、民

に謂えり、工作を爲すべき日は六日あり、其中に來りて醫されよ、安息の日に於てせざれ。主

彼に答えて曰えり、僞善者よ、爾等各安息日に於て其牛或は驢を槽より

解き、之を牽きて飲わざるか、況やアヴラアムの女なる此の婦十八年サタナに縛

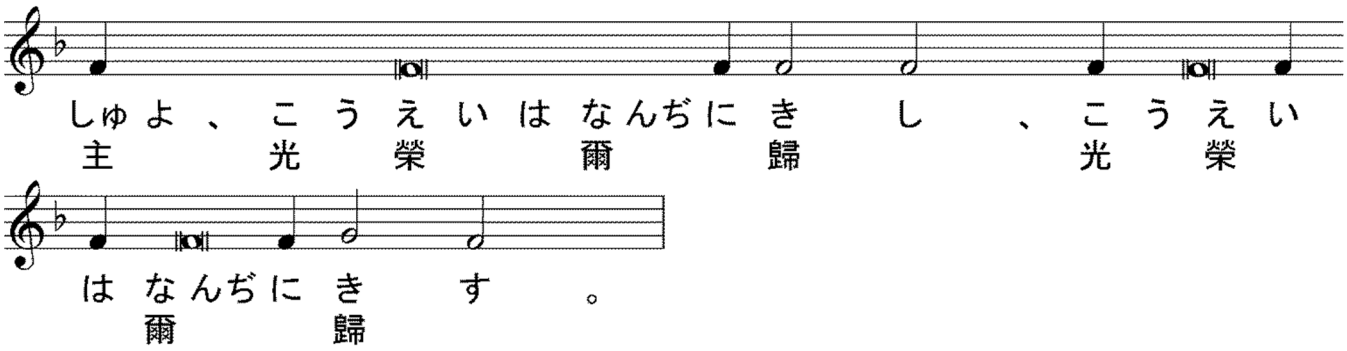
られたる者の結を、安息の日に於て解くべからざりしか。彼が之を言う時、彼に敵する者

は皆愧ぢ、衆民は彼が凡の光明なる行事を喜べり。

＊＊

（比較用　口語訳）イエスが安息日に、ある会堂で教えておられると、そこに十八年間も病気の霊につかれ、かがんだままで、からだを伸ばすことの全くできない女がいた。イエスはこの女を見て、呼びよせ、「女よ、あなたの病気はなおった」と言って、手をその上に置かれた。すると立ちどころに、そのからだがまっすぐになり、そして神をたたえはじめた。ところが会堂司は、イエスが安息日に病気をいやされたことを憤り、群衆にむかって言った、「働くべき日は六日ある。その間に、なおしてもらいにきなさい。安息日にはいけない」。主はこれに答えて言われた、「偽善者たちよ、あなたがたはだれでも、安息日であっても、自分の牛やろばを家畜小屋から解いて、水を飲ませに引き出してやるではないか。それなら、十八年間もサタンに縛られていた、アブラハムの娘であるこの女を、安息日であっても、その束縛から解いてやるべきではなかったか」。こう言われたので、イエスに反対していた人たちはみな恥じ入った。そして群衆はこぞって、イエスがなされたすべてのすばらしいみわざを見て喜んだ。

＊＊



※聖体礼儀③（金ロイオアン聖体礼儀）へ